

(一般質問)

質問日	令和7年12月8日（月）			質問方式	分割方式		
質問順位	7	会派名	創造浜松・ 国民民主党浜松	議席番号	34	氏名	湖東 秀隆
表 題	質 問 内 容			答弁者の職名			
1 道路ネットワークの早期整備と地域交通の最適化について	<p>昨年の一般質問において、土木部長からは「道路ネットワーク機能の早期発現の重要性」、また、都市整備部長からは「コンパクト・プラス・ネットワークの形成」の方針が示された。</p> <p>この方針を高く評価するものであり、今後の本市の持続可能な都市構造を形成する上で、引き続き推進すべき考え方であると認識している。昨年の答弁後の状況と、今後の取組・計画などを確認するため、以下伺う。</p> <p>(1) (都) 阿藏船明線は、阿藏山付近からの延伸、最低でも山王曲がり線までの接続について、また、(都) 中瀬都田線は、新東名浜松・浜北インターチェンジ、西鹿島駅との連携も含めた今後の方向性と、計画路線とほぼ並行している現道市道浜北根堅新海橋中瀬線の暫定整備について、それぞれの考え方を伺う。</p> <p>(2) 公共交通・道路ネットワークを一体に推進することが重要であることから、都市計画道路の保留路線について、いつ、どのように再評価をし、見直しを進めていくのか、その考え方や方向性について伺う。</p>			平井土木部長			
2 地域商業の現状把握と、地域経済ネットワーク形成への支援について	<p>市長はこれまで、まちの魅力を高め、市民がずっと住み続けたいと思うまちをつくる、と一貫して提唱している。その実現の鍵となるのは、単に都市機能を中心部に集約することだけではなく、各地域に位置づけられた生活拠点が、商業・サービス機能や経済活動を含めて持続的に回っていく“地域経済ネットワーク”的形成であると考えている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 市民生活を支える商店街や個店の現状について、どのように把握されているのか伺う。</p> <p>(2) コンパクトシティの理念を実質化するためには、地域での経済活動を支える商業機能の維持が不可欠であり、そのためには各地域の商工会や地元事業者との連携強化が必要と考える。高齢化・過疎化が進む地区を中心に、どのような支援を展開していく考えか伺う。</p>			北嶋産業部長			
3 ふるさと納税を活用した地域産業育成と経済循環の強化について	<p>地域経済の活性化という点では、ふるさと納税制度もまた、地域に新たな付加価値を生み、産業を育てる重要なツールとなり得る。</p> <p>市内各地域の農水産品や加工品の中には、事業は小規模であっても魅力的な商品が多数存在しており、各地域</p>			中村観光・ブランド振興担当部長			

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>の商工会を軸に中小生産者や事業者の新規参入を促す仕組みづくりが重要と考える。具体的には、返礼品登録に向けた商品開発・ブランディングなどのアドバイスを、地域単位の研修として展開し、事業者が自ら地域の資源を磨き上げ、返礼品化によって販路を拡大していく体制が必要と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 中小生産者や中小事業者の参入状況をどのように評価しているか伺う。</p> <p>(2) 返礼品開発を地域単位で実施する仕組みづくりについての考えを伺う。</p>	
4 中学校部活動の地域展開について	<p>来年9月から、各中学校の部活動について地域展開が開始予定であるが、文化系部活動については厳しい状況と思われる。地域での受け入れをはじめ、地域での指導者・練習場所・講師の問題・楽器の保管場所など、展開時期ありきではなく、それぞれの部活動を希望する生徒の思いが叶えられる組織やルールなどの体制づくりが重要と考える。</p> <p>大館市では、教育経験と行政経験を併せ持つ人材が中心となり、運営体制として、練習協力者・地域指導者、専門講師・統括責任者・運営事務局など細部にわたり人選し、役割分担を決め、コーディネーター役が各学校の顧問等との連携体制を構築している。</p> <p>本市も、吹奏楽連盟との連携を図っているが、地域での人材確保も重要であり、地域の協力も必要と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 中学校部活動の地域展開の進捗状況について伺う。</p> <p>(2) 吹奏楽部をはじめとした文化系部活動の地域展開の実施時期についての考えを伺う。</p> <p>(3) 大館市のように、地域での練習協力者や地域指導者、コーディネーターなど組織体制づくりも必要と考えるが所見を伺う。</p> <p>(4) 指導者の謝礼を含め、はまくる認定クラブの運営費用について伺う。</p> <p>(5) はまくる認定クラブの活動場所として、校舎内を活用するための統一的な運用について伺う。</p>	野秋教育長
5 発達障害や情緒障害のある人に関するアセスメントツールの活用について	<p>近年、発達障害や情緒障害のある子どもが増加しており、ライフステージに応じた適切な福祉サービスへつなぐためのアセスメントが重要である。</p> <p>浜松市障がい者自立支援協議会では、「こどもアセスメントツール」を作成し、活用に向けた取組を進めているようだが、市としての活用方針やさらなる周知について伺う。</p>	小松健康福祉部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
6 障害者グループホーム運営の実態把握と、不正防止に向けた取組強化について	<p>また、障害のある人の進路選択においてもアセスメントは不可欠であり、本年10月には「就労選択支援」が創設された。支援者が適切に進路を評価できるよう「就労支援のためのアセスメントシート」が作成されたが、このシートの今後の展開について伺う。</p> <p>障害者グループホーム（共同生活援助）についても、地域生活を支える重要な社会資源として整備が進む一方、一部の利益を優先した事業者による不適切な運営や虐待、不正請求などの問題が全国で報告されている。</p> <p>本市でも、移行支援や地域生活を希望する方の受け皿としての役割が拡大する中、こうした不適切事案の防止とサービスの質の確保が重要である。</p> <p>そこで、本市におけるグループホームの事業所数と利用定員数の直近3年間の推移、運営指導や監査の実施件数、改善報告や改善命令・取消に至った件数について伺う。</p> <p>併せて、不適切運営の防止とサービスの質の確保に向けた取組についても伺う。</p>	小松健康福祉部長